

精神医療オンブズマンって何ですか？

どうして必要なのですか？

これまで精神科病院の中ではいくつもの人権侵害事件（暴行・虐待・無視・放置）が起こってきました。その背景には、精神科医療の閉鎖性がありました。

NPO大阪精神医療人権センターは、患者さんが安心してかけられる精神科医療を目指して活動をしてきました。

精神医療オンブズマンは、大阪府にある精神科病院を訪問し、閉鎖病棟に入り、患者さんのお話をお聞きしています。入院患者・家族という立場のときには、病棟内で感じている疑問や意見などを、病院の職員に伝えにくくなります。そのような声も、聞かせてもらうようにしています。

その中で市民の目から見て、「これは改善して欲しい」と感じたことは病院に伝えてきました。

これまでの活動では、大阪府にある多くの病院で、いくつもの改善がみられました。隔離室が少しでも患者さんの心が休まるように改装されたり、薬の渡し方に工夫が加えられたり、ベッドの周りにカーテンがつけられたり、誰にも見られることがなく安心して使えるトイレが増えたり、入浴回数が増えたなどの事例が多くあります。

大阪府では1997（平成9）年に大和川病院事件がマスコミ等で大々的に報道されました。そして大和川病院の中で入院中の患者さんに対しておこなわれていた重大な人権侵害の実態が明らかになりました。精神医療オンブズマン制度は、二度とこのようなことはないようにということで創設されたものです。大阪府の精神保健福祉審議会が知事に提出した意見書にもとづいています。

精神医療オンブズマン制度は、大阪府独自の仕組みです。大阪府は、全国に先駆けて、よりよい精神科医療を目指して、このような仕組みをつくりました。全国からも注目されています。

ところが、今回、府知事がかわり、「財政再建プログラム試案」というのが出されました。そして、その中では精神医療オンブズマン制度の廃止が書き込まれています。

精神科医療が患者さんにとってよりよいものになるためにも、この制度は絶対になくすことはできません。

署名へのご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

2008年4月

NPO大阪精神医療人権センター

〒530-0047

大阪市北区西天満5-9-5 谷山ビル9階

TEL06-6313-0056 FAX06-6313-0058